

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



多くの人に支えられた3年間 ～感謝の気持ちを込めて～

花巻市建設部都市政策課 主査 高橋 和司

クレアに勤務したのは、2007年4月から2010年3月の3年間でした。この3年間の勤務で得た財産は、もちろん海外勤務による経験もそうですが、同じような立場で全国から集まって来た仲間や海外勤務でお世話になった方々とのつながりもその一つだと思っています。

1年目は東京の本部で勤務し、2年目、3年目はクレアパリ事務所で勤務をしました。1年目でクレアという組織の仕事を覚えつつ語学に磨きをかけてから海外勤務に臨むわけですが、この1年目もなかなかの充実ぶりでした。東京での業務内容は、管財・財務と契約業務でしたが、さまざまな事業の契約を一手に行っていたため、他課の職員と財務や契約内容で夜遅くまで激論を交わしたこともありました。また、年間で決められた語学の受講数を消化するためそれほど余裕はなかったと記憶しています。東京での勤務はあっという間ですが、ライバルであり同じ境遇の良き理解者である全国から集まった同僚の存在はこれから始まる海外勤務の心の支えになったと思っています。

海外に赴任してからは、仕事と生活のベースをつくるのが最優先事項になります。仕事では、電話の対応や調査、日本からの視察団のアテンドなど確実にこなしていかなければなりませんし、生活では、食事や健康管理、アパートの管理や携帯電話やインターネットの契約など、言葉が違うというだけで普通に暮らすことの難しさを改めて感じました。それでも、仕事も生活も上司、現地スタッフ、同時期に派遣されていた先輩にサポートしてもらい、そして、同期の2人とお互いを励ましながら乗り越えてきました。

2008年はちょうど日仏交流150周年の節目の年で、たくさんの行事が予定されていました。パリ事務所の面々もそれぞれ担当行事を抱えており、私もパリとストラスブールで日本人画家の作品展の開催やサン・ディ

エ・デ・ヴォージュという田舎町で開催される国際地学学会へのブース出展などを受け持っていました。サン・ディエ・デ・ヴォージュへは、現地スタッフと2人で行きましたが、相棒の現地スタッフに頼りっぱなしで、開催期間中に毎晩お酒を飲みながら反省会をしたことを今でも思い出します。

2009年になり、海外派遣の経験を派遣元の市役所に戻ってから実際にどのように生かすことができるか悩んでいたときは、当時の所長からこの経験が派遣元の業務に役立つ機会がなくても、人生の中では大きな財産になるとおっしゃっていただいたことは今でも心に残っています。花巻市に戻ってからは、国際交流業務や市長秘書業務にも従事しましたが、外国出張の際には、事前の準備や現地での対応にも海外勤務の経験は大変役立ちました。クレアパリ事務所においてお世話になった所長、次長、現地スタッフ、先輩、同期への感謝の気持ちは決して忘れません。

今でも、クレア同期組とは仕事からプライベートまで情報交換や交流を行っていますし、海外赴任出発前日に総務課と企画課で撮った写真は今でも大事にとっています。この仲間こそ私にとってこの派遣で得た一番の財産です。



海外赴任直前に撮った写真（前列右から2番目が筆者）

プロフィール・ほか

- 所属 花巻市建設部都市政策課 主査
- 業務内容 公共交通政策全般
- クレア時代の所属
2007年4月～2008年3月 東京本部総務課主査
2008年4月～2010年3月 パリ事務所所長補佐